

INTERACTION EFFECTS OF IN-HOSPITAL
REHABILITATION AND THE USE OF COMMUNITY-BASED
SERVICES AFTER HOSPITAL DISCHARGE ON PATIENTS'
SUBSEQUENT FUNCTIONAL ABILITIES

澁田, 英敏

<https://hdl.handle.net/2324/2236338>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :



(別紙様式2)

氏名	澁田 英敏
論文名	INTERACTION EFFECTS OF IN-HOSPITAL REHABILITATION AND THE USE OF COMMUNITY-BASED SERVICES AFTER HOSPITAL DISCHARGE ON PATIENTS' SUBSEQUENT FUNCTIONAL ABILITIES
論文調査委員	主査 九州大学 教授 鴨打 正浩 副査 九州大学 教授 中島 康晴 副査 九州大学 教授 馬場園 明

論文審査の結果の要旨

退院後の患者の生活機能は、入院中のリハビリと退院後の社会資源利用の影響を受けている。申請者らは、入院中のリハビリと退院後のリハビリおよび非リハビリサービスの利用の交絡の患者の生活機能に及ぼす影響について調査した。本研究は、日本において、2008年から2011年の間にリハビリを受けた入院患者509人を対象とした。患者は病状に基づき、2つのグループに分類した(脳卒中とその他)。退院後、機能的自立度評価表(FIM)の変化と、社会資源のリハビリサービスおよび非リハビリサービス利用との間の交互作用効果が、患者の生活機能に与える影響を、退院3カ月後のFIMスコアを目的変数とした階層的線形回帰分析によって評価した。結果として、脳卒中とその他の患者において、FIMの変化と退院後のリハビリ・非リハビリサービス利用との間に有意な交互作用が認められた。入院中のリハビリと退院後のリハビリ・非リハビリサービスの利用は相互に交絡し、自宅退院患者のその後の生活機能に影響を及ぼしていた。本研究の結果は、退院後、患者の生活機能を維持するうえで有益であると考えられた。

以上の結果は、この方面に新たな知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、研究結果などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。

よって、調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。